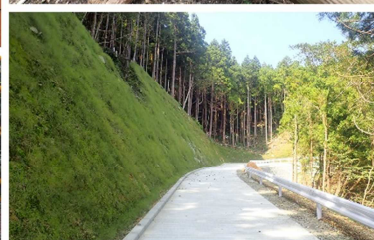


令和7年度 賀茂の農林業

～豊かな自然の恵みを活かす～



静岡県賀茂農林事務所

目 次

1	賀茂地域の農林業の概要 -----	1
2	重点取組方針〔令和4年度～令和7年度〕 -----	3
3	主要な取組状況 -----	4
4	賀茂農林事務所組織の概要 -----	13
5	賀茂地域の主要な農産物 -----	14

1 賀茂地域の農林業の概要

賀茂地域は、伊豆半島中央部の天城連山南側に位置する下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の6市町で構成されています。

当地域は、温暖な気候、風光明媚な自然、四季折々の花々、豊かな食材、温泉の湧出等に恵まれ、特色ある農林業を展開しています。また、天城連山の一部と海岸地帯は「富士箱根伊豆国立公園」に指定されています。

<総面積と総人口>

賀茂地域6市町の総面積は58,335 ha（静岡県統計年鑑2023）で県全体の7.5%、総人口は55,746人（住民基本台帳月報（令和7年4月1日現在））で県全体の1.6%です。

<農 業>

農作物は、温暖な気候を利用して、イチゴやキヌサヤエンドウ等の野菜類、ニューサマーオレンジをはじめとした中晩柑やハウスみかん等の果樹類、カーネーションやマーガレット等の花き類のほか、伊豆の特産品としてサクラバ等が栽培されています。また、山間地では、清流を利用してワサビが栽培されています。

◆ 賀茂地域農家戸数

（単位：戸・%）

年次	項目	農家戸数		
		農家戸数	自給的農家数	販売農家数
平成27年(A)		2,262	1,567	695
令和2年(B)		1,871	1,301	570
増減(B)―(A)		▲391(▲17%)	▲266(▲17%)	▲125(▲18%)
県内シェア(R2)		3.7	4.9	2.3

注）農林業センサス（2015、2020）

◆ 賀茂地域耕地面積

（単位：ha・%）

年次	項目	耕地面積	内 訳	
			田	普通畑
平成30年(A)		1,535	437(28%)	1,098(72%)
令和5年(B)		1,376	355(26%)	1,021(74%)
増減(B)―(A)		▲159(▲10%)	▲82(▲19%)	▲77(▲7%)
県内シェア(R5)		2.3	1.7	2.7

注）農林水産関係市町村別統計（農林水産省、農業ビジネス課調べ）

◆ 賀茂地域農業産出額

（単位：千万円）

年次	項目	産出額	内 訳						
			米	野 菜	果 実	花 き	工芸作物	畜産	その他
平成30年(A)		283	18	123	78	42	0	15	7
令和5年(B)		269	16	86	65	63	0	23	16
増減(B)―(A)		▲14	▲2	▲37	▲13	21	0	8	9

注）市町別農業産出額（推計）※野菜はいも類を含む

<林 業>

賀茂地域の森林面積は 47,072ha で県全体の 9.5%を占め、森林率は 80.7%です。なお、森林の 82.4%が民有林であり、民有林のうち人工林は 43.5%で県平均(58.8%)に比べて低く、広葉樹林が多いことが特徴です。

スギ・ヒノキ等の人工林(16,879ha)のうち、伐採して利用することのできる 41 年生以上の森林が約 9 割を占めており、木材生産を進めるためには、森林施業の集約化や利用間伐に向けた路網の整備、低コスト主伐・再造林等の確立が重要となっています。

森林整備の担い手として、伊豆森林組合をはじめとした 5 つの林業経営体が、「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づく知事の認定を受け、森林技術者による積極的な木材生産の取組を展開しています。

◆ 賀茂地域森林面積

(単位 : ha、%)

年次	項目	森林面積	内 訳		人工林 (民有林)	森林率 (%)	人工林率 (民有林)
			国有林	民有林			
令和 2 年 (A)		47,134	8,309	38,825	16,876	80.8	43.5
令和 6 年 (B)		47,072	8,309	38,763	16,879	80.7	43.5
増減 (B) — (A)		▲62	0	▲62	3	—	—
県内シェア (R6)		9.5	9.2	9.5	7.0	—	—

注) 令和 6 年度静岡県森林・林業統計要覧

◆ 素材生産量

(単位 : m3)

年次	項目	賀茂地域			全県		
		合計	主伐	間伐	合計	主伐	間伐
令和 2 年 (A)		15,127	1,748	13,379	420,886	175,113	245,773
令和 6 年 (B)		24,410	16,905	7,505	411,121	185,813	225,308
増減 (B) — (A)		9,283	15,157	▲5,874	▲9,765	10,700	▲20,465

注) 令和 6 年静岡県素材生産量調査結果

◆ 林業経営体数

(単位 : 経営体)

年次	賀茂地域	静岡県内
平成 27 年 (A)	59	1,964
令和 2 年 (B)	12	837
増減 (B) — (A)	▲47	▲1,127

注) 農林業センサス (2015、2020)

2 重点取組方針 [令和4年度～令和7年度]

「静岡県食と農の基本計画・地域編」及び「静岡県森林共生基本計画」に基づき、賀茂地域の特性を活かした、次の取組を重点的に進めています。

農 業 ・ 農 地	<u>No.1 施設園芸等高収益作物産地の維持・拡大</u> 1 新技術導入によるカーネーションの生産性向上 (1)EOD-heating 等、新技術の普及及びスマート技術の導入支援 (2)新たな販売需要の創出 2 ハウスみかんの新たな栽培方式とスマート技術の導入による生産性の向上 (1)垣根仕立て栽培の普及 (2)スマート技術の導入による産地の核となる若手生産者の支援 3 施設栽培等主要野菜の生産安定 (1)いちご栽培の現地課題の解決による安定生産の実現 4 産地を担う生産者の育成 (1)新規就農者の受入体制整備 (2)就農相談会 (3)若手農業者の経営支援 (4)経営向上に向けた取組の明確化及び実行支援
	<u>No.2 農地の耕作条件整備と多様な担い手の活躍による農地の維持・有効活用</u> 1 優良農地の確保と農地の集積・集約化 (1)伊豆縦貫自動車道建設発生土を活用した基盤整備事業の推進 (2)地域の規模拡大志向経営体への農地の集積・集約化 (3)担い手不在区域への企業参入の推進 2 地域特産品の生産振興 (1)ニューサマーオレンジ等における省力化技術導入推進 (2)河津桜切り枝の生産技術と生産体制構築支援 3 直売所を核とした多様な担い手の育成による地産地消の推進 (1)既存出荷者を対象にした農産物安定生産・供給体制構築 (2)研修指導を活用した指導体制の構築と新規出荷者（半農半X等）の育成
	<u>No.3 魅力あふれる地域資源の維持・活用による交流人口の拡大</u> 1 ツーリズム商品の造成による交流の促進 (1)ターゲットを明確にしたツアーの造成、誘客 2 観光等多様な団体と連携した水わさびの活用推進 (1)ジオと組み合わせたツアー造成及び持続可能な地域の運営体制の構築 3 地域資源の維持・保全 (1)多様な主体と連携した地域資源の維持・保全活動の推進

	4 鳥獣被害の軽減 (1) 鳥獣被害対策実施隊の活動およびモデル集落設置支援
森 林 ・ 林 業	No. 4 森林資源の循環利用と森林の適正な整備・保全 1 森林資源の循環利用を担う林業・木材産業によるグリーン成長 (1) 収益性の高い主伐・再造林の促進 (2) 森林認証材の供給拡大 (3) 林業経営体の経営改革 2 森林の公益的機能の維持・増進 (1) 適切な森林整備の促進 (2) 森林保全による県土強靱化 (3) 森林の公益的機能の回復 (4) 適正な保安林の配備と森林利用 3 社会全体で取り組む魅力ある森林づくり (1) 県民や企業の参加による森づくり

3 主要な取組状況

1 目標指標の推移

目標指標名	基準値	現状値	目標値 (令和7年度)
農業産出額	26 億円 (令和元年)	27 億円 (令和5年)	33 億円 (令和7年)
新規農業法人数	0 法人 (令和2年度)	1 法人 (令和6年度)	毎年度 1 法人
担い手への農地集積面積	317ha (令和2年度)	331ha (令和5年度)	365ha
品目別基盤整備プロジェクトの整備面積	累計 6 ha (令和3年度まで)	累計 6 ha (令和6年度まで)	累計 16ha (令和7年度まで)
ふじのくに美しく品格のある 邑づくりの参画者数	2,337 人 (令和2年度)	3,222 人 (令和6年度)	3,897 人
木材生産量	15,127m ³ (令和2年)	24,410m ³ (令和6年)	毎年 24,900m ³

2 重点プロジェクトの取組状況

(1) 施設園芸等高収益作物産地の維持・拡大

ア 主な取組

(ア) 新技術導入によるカーネーションの生産性向上

施設内環境モニタリング機器や、暖房管理を携帯端末などで遠隔操作できる環境制御機器の導入を進めています。これら新技術の導入を進め、労力軽減と適切な管理による生産量増加へつなげます。併せて、制御の効率化を図るために、カーネーションの適切な生育のための管理技術などの講習会を開催しています。また、冬季の生育促進を目的に、時間帯別の暖房温度設定やLED照射による補光の効果について、全国規模の共同研究にも参画し、検証を行っています。



〔LED照射施設でのカーネーション栽培状況（東伊豆町）〕

(イ) ハウスみかんの新たな栽培方式とスマート技術の導入による生産性の向上

ハウスみかんでは、管理労力軽減のため、施設内で通常のハウスみかん栽培よりも多くの樹を植え、列状に管理・整枝する「垣根仕立て栽培」の導入を進めています。垣根仕立て栽培は収穫や病虫害防除等の管理作業が比較的容易に行えることから、作業の省力化に繋がります。地元JAや農林技術研究所等の関係機関と情報を共有しながら生産性の向上に向けた取組を支援していきます。



〔ハウスみかんの垣根仕立て栽培（東伊豆町）〕



〔ハウスみかんの慣行栽培（東伊豆町）〕

(ウ) 施設栽培等主要野菜の生産安定

イチゴでは、育苗作業の省力化と秋の苗不足解消のため、花芽分化（イチゴの体内に花芽ができること）の前の夏季に定植する「未分化苗定植」の実証を行っています。未分化苗定植により、育苗の作業時間は慣行のポット育苗栽培の1/4に短縮され、育苗コスト削減及び炭疽病発生低減の効果も期待できます。また、未分化苗定植は収穫の始まりは慣行栽培に比べて遅れますが、栽培期間を通じた総収穫量は同等です。



〔イチゴ未分化定植苗育成状況（南伊豆町）〕

このため、慣行栽培と未分化苗定植栽培の組み合わせによる現地への導入を支援しています。また、イチゴ栽培において現地で課題となっている病害や生育障害についても、原因を究明するための定期的なモニタリング調査を実施しています。

(エ) 産地を担う生産者の育成

経営発展を目指す農業経営体を対象に、経営分析の手法や経営・マーケティング戦略等を体系的に学習する「経営改革講座」を開催しています。令和6年度は、3経営体が計5回の講座により経営コンサルタントからアドバイスを受け、5か年の経営計画（新品種導入による生産強化等）を作成しました。今後も、経営改革講座の開催や、計画達成のためのフォローアップを通じて、意欲のある経営体の経営発展や経営者の資質向上を支援していきます。



〔経営計画の発表会〕

イ 管理指標の推移

指標名	基準値	実績値	目標値 (令和7年度)
花きの産出額	4億2千万円 (平成30年)	6億3千万円 (令和5年)	5億2千万円
果実の産出額	6億8千万円 (令和元年)	6億5千万円 (令和5年)	7億9千万円
カーネーションの新技术導入 延べ面積	6.6a (令和3年度)	276a (令和6年度)	延べ220a
ハウスみかんの垣根仕立て 栽培導入棟数	1棟 (令和2年度)	2棟 (令和6年度)	5棟
いちごの10a当たり収量	3,800 kg (令和2年度)	3,516 kg (令和5年度)	4,300 kg
新規就農者数	9人/年 (令和2年度)	5人/年 (令和5年度)	11人/年

(2) 農地の耕作条件整備と多様な担い手の活躍による農地の維持・有効活用

ア 主な取組

(7) 優良農地の確保と農地の集積・集約化

建設中の伊豆縦貫自動車道の建設発生土を有効活用した農地基盤整備により優良農地を創出し、担い手への農地集積を目指しています。

南伊豆町竹麻地区では、令和4年度から換地計画原案同意、区画整理設計が進められ、令和6年度からは流末排水路の工事及び伊豆縦貫自動車道建設発生土の搬入を開始しました。

また、完成後は、県外の農業法人が参入予定であり、賃貸借計画や営農計画の調整を進めていきます。



〔建設発生土活用による基盤整備イメージ
(南伊豆町竹麻地区)〕



〔参入法人による現地確認 (南伊豆町)〕

松崎町小山地区では、令和4年度から区画整理設計、換地計画原案作成を進めており、令和8年度の事業完了を目標に、農地基盤整備工事を実施しています。



〔事業計画地ドローン撮影（河津町見高）〕

南伊豆町手石・湊地区では、県外の農業法人の参入による大規模な区画整理を計画していることから、町や農協、農業振興公社と連携して、営農調査や事業計画策定などに取り組んでいます。

このほか、河津町見高地区、東伊豆町稲取地区では、地域の担い手支援を図る事業計画を策定しています。

(イ) 地域特産品の生産振興

ニューサマーオレンジの省力化技術として樹幹部を切断し、新梢を仕立て低樹高化する「カットバック技術」の導入を進めています。

また、河津桜の切り枝生産体制を確立するため、専用ほ場の整備と、栽培から収穫・出荷調整までの技術向上を支援しています。



〔カットバック処理1年後（東伊豆町）〕

(ウ) 直売所を核とした多様な担い手の育成による地産地消の推進

農産物直売所における販売物の品揃え充実や新規出荷者を確保するための農業研修指導体制づくりを支援しています。令和4年度から、直売所「南伊豆湯の花」が開設した研修農場において、新規出荷者の育成を目的とした、基礎講習および実習指導の支援をしています。



〔湯の花研修農場での栽培研修（南伊豆町）〕

本活動は出荷者の増加につながっており、令和7年度も支援を継続します。また、他の直売所にも、同様の活動を提案していく計画です。

イ 管理指標の推移

指標名	基準値	実績値	目標値 (令和7年度)
基盤整備事業の調査計画面積	11.4ha (令和2年度)	25.3ha (令和5年度)	23.4ha
担い手への農地集積面積	317ha (令和2年度)	331ha (令和5年度)	365ha
ニューサマーオレンジの省力化技術導入者	1人 (令和2年度)	11人 (令和6年度)	累計10人
研修を受講して新たに出荷した人数	0人 (令和2年度)	13人 (令和6年度)	累計20人

(3) 魅力あふれる地域資源の維持・活用による交流人口の拡大

ア 主な取組

(7) ツーリズム商品の造成による交流の促進

静岡県グリーン・ツーリズム協会伊豆半島支部の活動を支援しています。令和6年度から活動範囲を伊豆半島全体まで拡大し、新規会員勧誘やチラシの作成による一般への周知を行っています。

また、地域の魅力を伝えるスキルアップを目的に、三島市で地域ガイドリーダー養成講座を開催しました。

令和7年度は、更なる会員増加と新たなツアー体験プログラムの検討を進めていきます。



〔地域ガイドリーダー養成講座（三島市）〕

(イ) 観光等多様な団体と連携した水わさびの活用推進

わさび農作業体験とジオパークである伊豆半島の景観学習を行う「わさびジオツアー」の定着に向け、ツアーを開催するわさび生産者と伊豆半島ジオガイド協会、旅行業者の連携を支援しています。わさびジオツアーは令和5年度から年6回程度募集しており、今後、宣伝範囲の拡大、ツアー運営のマニュアル化を進めていきます。



〔わさびジオツアー（松崎町池代）〕

(ウ) 地域資源の維持・保全

a ふじのくに美農里プロジェクト（多面的機能支払交付金）

5地区（東伊豆町稲取、河津町上佐ケ野、松崎町石部、松崎町鮎川、西伊豆町宇久須）において、“ふじのくに美農里プロジェクト(多面的機能支払交付金)”を活用した農地維持活動や資源向上活動を実施しています。

本交付金による活動は、農地や道水路、農村景観の維持保全に効果的であることから、基盤整備実施地区や地域住民活動が活発な地域で重点的に事業が活用されるよう、積極的な広報・説明を行っています。



〔地域活動による赤蕎麦の花畑
（西伊豆町宇久須）〕

b ふじのくに美しく品格のある邑（むら）づくり

本県では農山村の魅力ある資源（景観、伝統・文化等）を後世に継承する活動を実施している地域を“ふじのくに美しく品格のある邑”として登録しています。賀茂地域では、現在15邑が登録されています。登録された邑では、農村地域の課題解決や活性化を目指すため、多様な主体と連携した地域活動や広報等を支援しています。



〔農村連携支援事業による企業・大学との連携活動（南伊豆町伊浜地区）〕

(エ) 鳥獣被害の軽減

各市町の「鳥獣被害対策実施隊」の活動や、市町間の連携を強化するために、ミーティングを開催しています。下田市・河津町・南伊豆町では、市町や県の連携により、住民参加型の取組を支援する専門家による講習会が実施されました。また、現地の被害状況や要望に応じ、賀茂農林事務所職員による講習も行っています。

このほか、松崎町では県営中山間地域総合整備事業により、令和6年度から令和8年度にかけて獣害防止柵の整備を行います。今後も鳥獣被害対策実施隊を中心とした地域住民が主体となった鳥獣被害対策を支援していきます。



〔ワイヤーメッシュと電柵を組み合わせた柵の設置演習（南伊豆町）〕



〔県営中山間地域総合整備事業による獣害防止柵の整備（松崎町）〕

(オ) 地域を創る事業

賀茂地域の農地は中山間地域であり、効率的な営農のためには農道・水路、農業集落間の道路網の整備が必要です。そのため、中山間地域総合整備事業（東伊豆町・河津町東河地区、松崎町松崎地区）により、農道や農業用排水路の整備を行い、営農の効率化を図っています。

令和5年6月には、一般農道整備事業（東伊豆町稲取地区）が事業完了し、ニューサマーオレンジなど柑橘栽培農地の通作や輸送の効率化を図る幹線農道が開通しました。



〔令和5年度に開通した東伊豆町稲取地区農道整備〕



〔柑橘等を栽培する農地の農道整備（河津町見高）〕

(カ) 農地や地域を守る事業

南海トラフ巨大地震等の大規模地震に備え、土地改良施設等の防災減災対策を進めています。賀茂地域では、令和3年度に農業用ため池である吉田貯水池（松崎町）、中の平用水池（東伊豆町）の耐震補強工事が完了しました。また、令和5年度には、農地海岸保全施設である吉田海岸（南伊豆町）の排水ゲート自動化改修工事が完了しました。



〔海岸沿いの農地や集落を守る農地海岸施設（南伊豆町吉田海岸）〕

(キ) 地籍調査の推進

大規模地震発生時に甚大な津波被害等が危惧される賀茂地域では、被災後の迅速な復旧・復興を可能にする地籍調査の実施が急務となっています。このため、平成 29 年度から管内 6 市町で地籍調査を共同で実施し、各市町職員の技術力向上を図っております。第 7 次国土調査事業十箇年計画に基づき、令和 7 年度も津波浸水想定区域を中心に地籍調査を進めていきます。

イ 管理指標の推移

指標名	基準値	実績値	目標値 (令和 7 年度)
新たな体験プログラムの造成数	0 プログラム (令和 2 年度)	36 プログラム (令和 6 年度)	累計 40 プログラム
ふじのくに美しく品格のある 邑 づくりの参画者数	2,337 人 (令和 2 年度)	3,222 人 (令和 6 年度)	3,900 人
野生鳥獣による農作物被害 金額	2 千 8 百万円 (令和 2 年度)	2 千 2 百万円 (令和 5 年度)	2 千 6 百万円
被害防止対策モデル集落数	1 集落 (令和 2 年度)	9 集落 (令和 6 年度)	累計 13 か所

(４) 森林資源の循環利用と森林の適正な整備・保全

ア 主な取組

(ア) 森林資源の循環利用を担う林業・木材産業によるグリーン成長

a 収益性の高い主伐・再造林の促進

戦後に植林されたスギ、ヒノキの人工林の多くは、現在では木材として利用できる大きさに成長し、資源として活用する時期を迎えていることから、林業経営体による低コストで収益性の高い主伐・再造林の取組を促進しています。



〔高性能林業機械を利用し地持えを省力化しています〕

b J-クレジットの創出

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、J-クレジット制度^{*}を活用した森林経営を普及するため、稲梓県営林をモデル林とした J-クレジットの創出に取り組んでいます。その結果、令和 6 年度は 117t-CO₂ に相当するクレジットが認証・発行されました。創出したクレジットはカーボン・オフセット等に活用する需要者へ販売し、収益の一部は県営林の森林整備に活用されます。



〔適切な森林整備が進む稲梓県営林でクレジットが認証されました〕

(※ J-クレジット制度：森林管理などによる CO₂ 排出削減量をクレジットとして国が認証する制度)

c 林業経営体の経営改革

林業経営体、市町、森林管理署、県等で構成される「南伊豆地域森林資源活用推進協議会」を開催し、木材生産性向上等の課題解決に取り組んでいます。また、伐木技術の勉強会や、安全講習会・安全パトロールの実施等を通じて、林業経営体の労働安全衛生の確保を進めています。



〔現場での勉強会は技術向上には最も有効な手段です〕

(イ) 森林の公益的機能の維持・増進

a 適切な森林整備の促進

管内において、毎年約 200ha の間伐が実施されています。間伐等の適切な森林整備を促進するためには、林道や森林作業道等の路網は重要な役割を担っています。令和元年度には、松崎町と南伊豆町を結ぶ「林道青野八木山線」が開通し、さらに令和4年度から西伊豆町で「林道寺澤洞山線」を開設中です。



〔今後、林道の周辺で森林整備が進んでいきます（寺澤洞山線）〕

また、林道から離れた森林内で伐採した丸太を林道に集めるため、丈夫で簡易な構造かつ建設費用を抑えた森林作業道の整備を支援しています。

b 森林保全による県土強靱化

賀茂地域は、火山噴出物の堆積層が広く分布したぜい弱な地質で、豪雨や地震により大規模な山地災害が発生してきました。県民の生命・財産を守るため、古い治山施設の点検や新たな治山ダム等を整備し、災害の未然防止に努めています。

令和7年度は下田市や松崎町等で治山事業を計画しており、早期に効果を発揮できるよう工事を実施する予定です。

工事前

工事後



〔既設治山施設の点検状況〕



〔法面からの落石を防ぐための工事をしました

（令和6年度治山（予防）了仙寺工事）〕

c 森林の公益的機能の回復

県は、所有者による整備が困難で手入れが行われていない荒廃した森林を対象に、平成 18 年 4 月から導入した「森林（もり）づくり県民税」を財源として、「森の力再生事業」を実施しています。森林組合、林業経営体等との連携により整備を推進し、土砂災害防止機能、水源かん養機能等の「森の力」の回復を図っています。賀茂地域では、平成 18 年から令和 6 年度までの 19 年間で 1,744ha の森林が整備されました。



〔災害に強い山が整備されていきます〕

d 適正な保安林の配備と森林の利用

県は、水を貯えたり、洪水を防いだり、土砂の流出を防止するなど公益的な機能が高い森林を保安林に指定しています。賀茂地域では令和 7 年 4 月時点で、森林面積の約 30%にあたる 14,530ha の森林が指定されています。さらに、無秩序な開発で森林の機能が低下し、周辺に悪影響を及ぼさないよう、林地開発の許可に当たっては、適正な審査を行っています。



〔保安林の管理看板設置（東伊豆町）〕

(f) 社会全体で取り組む魅力ある森林づくり

a 県民や企業の参加による森づくり

県は、県民の皆さまが、森づくりに対する理解を深める機会の場合として、毎年秋に、森林とふれあう「森づくり県民大作戦」を開催しています。

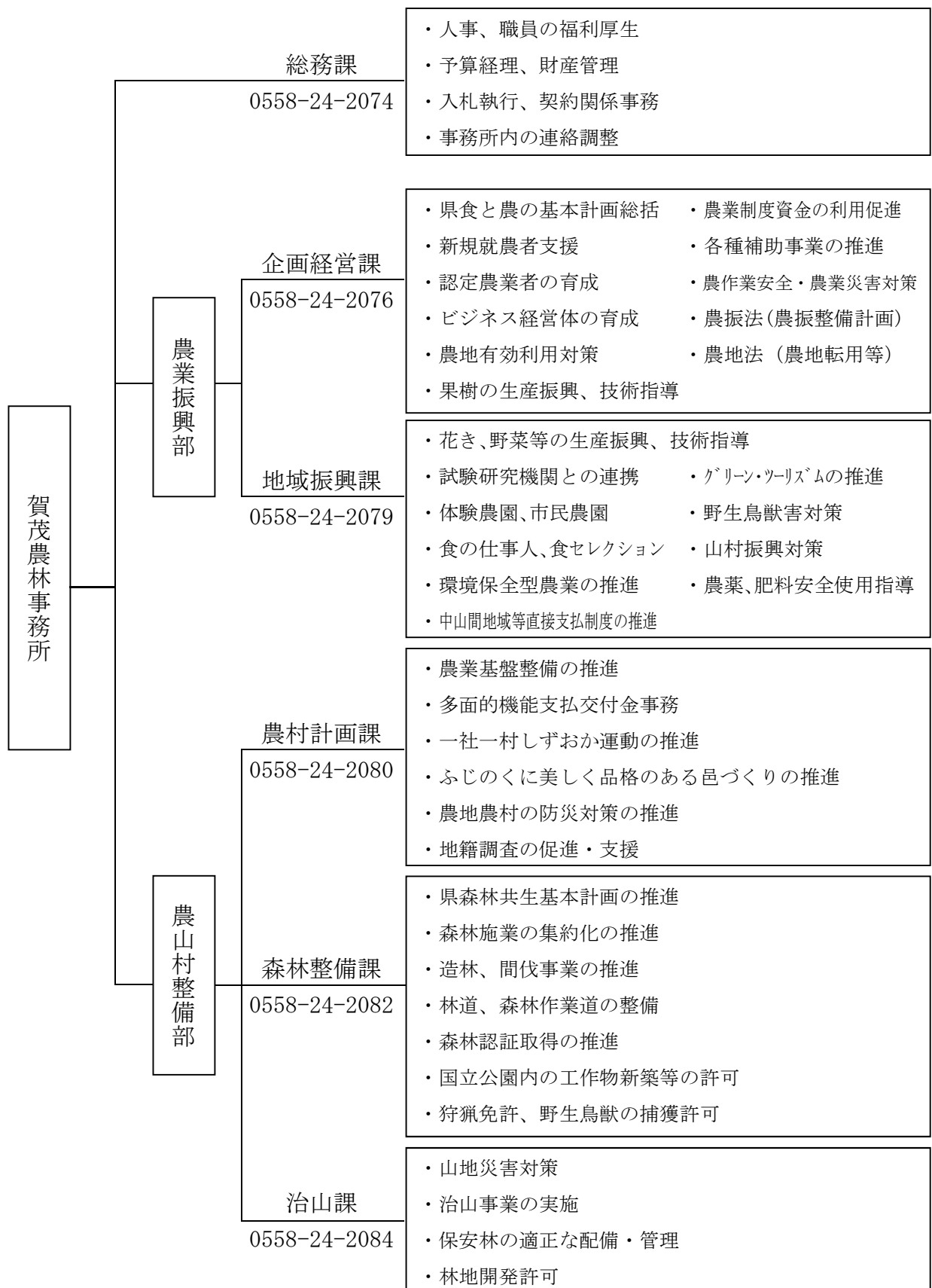
令和 6 年度は、松崎町及び西伊豆町に住む小学生を対象に牛原山県有林（松崎町）でブッシュクラフトを体験してもらうとともに、賀茂地域の森林整備の状況について説明しました。



〔ブッシュクラフト体験の様子〕

イ 管理指標の推移

指標名	基準値	実績値	県目標値 (令和 7 年度)
森林施業の集約化面積 (森林経営計画認定面積)	3,459 ha (令和 2 年度)	4,342 ha (令和 6 年度)	100,000ha
再造林面積	6.0ha (令和 2 年度)	8.4ha (令和 6 年度)	毎年度 500.0ha



5 賀茂地域の主要な農産物

野 菜

静岡県的主要品目であるワサビ、イチゴの他に、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた商品として県が「しずおか食セレクション」に認定したキヌサヤエンドウとノブキ、生産量日本のサクラバ等、地域特有の品目が数多くあります。



【ワサビ】
出荷時期：一年中



【イチゴ】
出荷時期：11～5月



【ノブキ】
出荷時期：3月～5月
10月～12月

果 樹

県内では賀茂地域でのみ生産されているニューサマーオレンジ（‘ヒュウガナツ’）をはじめ、アマナツ、はるひ、ポンカン等の特色ある中晩性柑橘類や、東伊豆町が栽培発祥の地で7～8月に出荷されるハウスみかんなど、1年を通じ様々な柑橘が出荷されています。



【ニューサマーオレンジ】
出荷時期：4月～6月



【ポンカン】
出荷時期：12月～3月



【ハウスみかん】
出荷時期：7月～8月

花 き

主要花き品目であるカーネーション、静岡県で育成されたバラエティ豊かなオリジナル品種が魅力のマーガレット、各種品評会で高い評価を得ているキンギョソウなど、特徴的な品目が栽培されています。



【カーネーション】
出荷時期：10月～5月

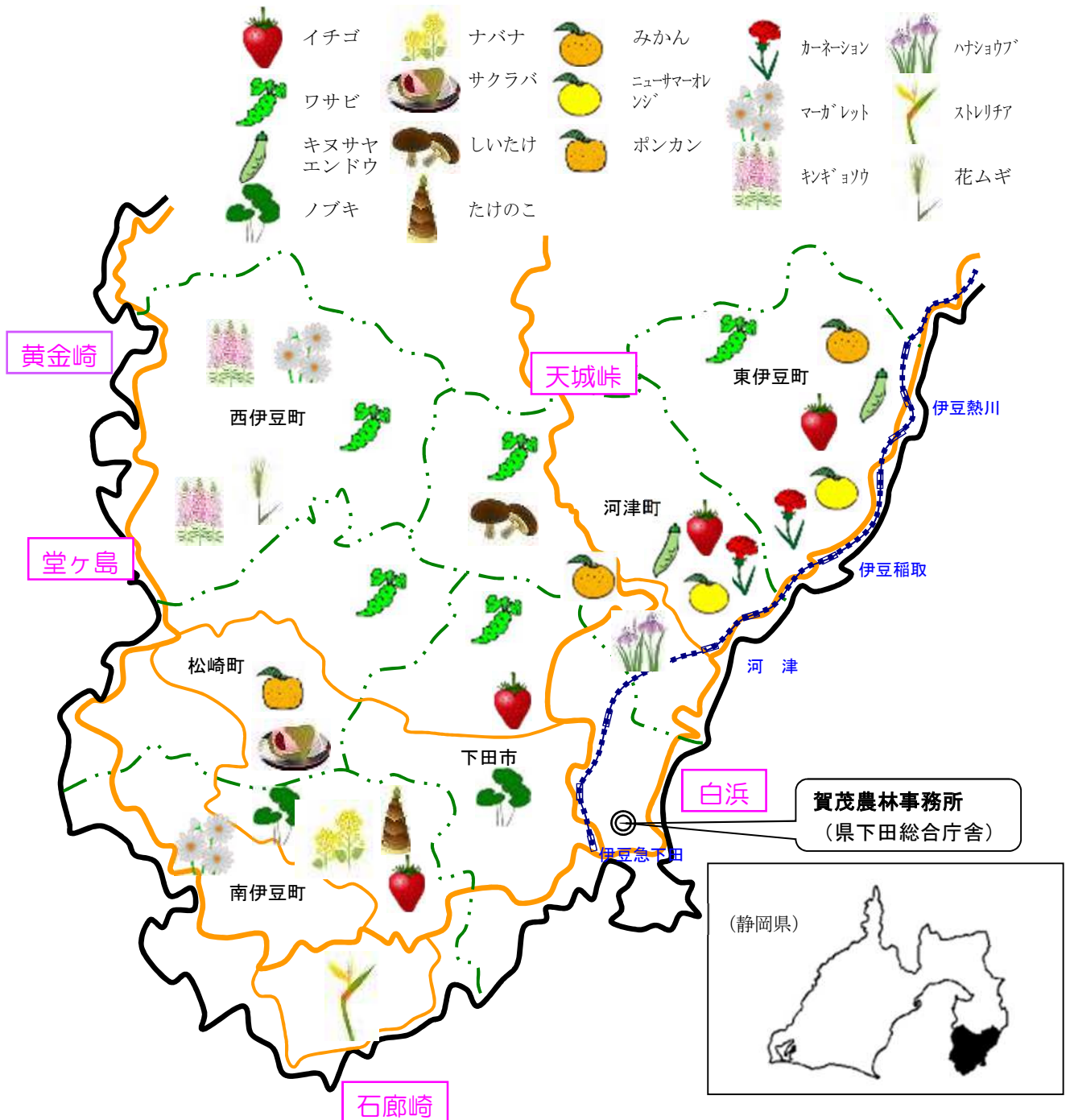


【マーガレット】
出荷時期：11月～5月



【キンギョソウ】
出荷時期：10月～4月

位置図



静岡県賀茂農林事務所

〒415-0016 静岡県下田市中531-1

電話 0558-24-2074

FAX 0558-24-2163

電子メール kamonou-soumu@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-710/>